

大学技術士会のヒアリングの総括

2021年5月

産業界活用推進チーム ヒアリンググループ

I. ヒアリング結果の整理

首都圏に本拠地を置く11の大学の教員、及び大学技術士会から、技術士の活用状況、技術士制度の認知度、学生への技術者教育への活用などをヒアリングした。

1. 大学技術士会の社会貢献の立ち位置

○会員が非常勤講師となって、担当講義を通じて、(大学⇄)学生への技術者教育に関与した社会貢献に重きをおく大学技術士会と、一般市民を対象にセミナーを含む技術講演会、小中学生への理科教室や中小企業の技術相談・指導などによる社会貢献を重視する大学技術士会の大きく2つの流れがある。もちろん両者を目的にした大学技術士会もある。

- ・大学技術士会会員の担当科目は技術者倫理や実践的な技術者教育の講義(6校)である。
- ・理科教室の優れた実績で数多く表彰されている(大学技術士会を含む)大学同窓会もある(1校)。

2. 大学技術士会の技術士資格のアピール

○大学生への技術士資格の説明は、技術士会会員が講義で、また講義を担当していなくとも大学技術士会が主体的に説明会を実施している(5校)。また併せて、学園祭等で出展し、学生や市民にも説明している大学技術士会もある(1校)。

⇒ 大学技術士会会員が講義、説明会を実施している大学は、学生の一次試験の受験者数が多い傾向にある。これらの大学の中には、受験奨励(5校)の他にも受験料の負担の支援をしている大学(2校)がある。

- ・入学ガイダンスに取得できる資格に技術士を記載している大学もある(1校)

⇄ 受験生の増大につながる大学の支援が必要 ⇄ 大学・大学技術士会の信頼関係

3. 大学技術士会の課題

- ① 大学技術士会組織:対象のOB/OG技術士を把握できず、同窓会や人脈のルートのみ活用で、カバー率も低い。
- ② 技術士二次試験:学生に1次試験を奨励し、合格しても、2次試験受験にはつながらず、技術士へのルートが卒業で線が切れてしまう。

4. 大学・大学技術士会から日本技術士会の支援の要望

- ① 大学技術士会の会員増(⇄活動力) → 日本技術士会からの卒業者情報の協力・支援が欲しい。
- ② 一次試験合格から二次試験受験・技術士の道筋をつけたい。
→ 技術士資格の社会での価値評価、認知度を上げて欲しい。
・就職時に有利となる資格として、企業に認知、理解する仕掛けが欲しい。
・1次合格の学生を日本技術士会員として継続して活動させる工夫が欲しい。

- 受験者を増やす → 受験料の低額化。
- 日本技術士会入会で技術士活動の価値を理解してもらう。
- 1次合格者の会費低額化。
- CPD 活動の参加費無料。など

(追記): JABEE と技術士 (一次試験) の関係

- ・JABEE と技術士一次試験受験、ましてや技術士への道はつながってはいない。
- ・JABEE 認定学科のある大学 (9校) では、国際認証による国際評価 (→ 留学生入学増) にもなり、また講義の改善など教員の積極的な取り組む姿勢に高い評価をしている大学と、教員の負担増という否定的なコメントもある。

II. ヒアリングからのまとめ

(1) 技術士会会員が講義を担当している大学ほど、学生に一次試験の受験を奨励している傾向ある。

→ 大学教員の技術士資格取得者は稀なので、講義している技術士講師の発信力の魅力が大きいのではと考える。

← 一次試験受験の奨励校と、大学技術士会の会員数との関係というよりも、その学科でリーダーシップを執っている教授と大学技術士会の会員技術士の個人の繋がり (信頼関係) にあるように窺われた。← 現時点では、学部ではなく、その良好な関係が保たれている 学科 に限定されていることとも対応している。→ 技術士の発信力を評価する学科を拡げ (教授と技術士の信頼関係)、学部全体に拡げたい。→ 大学技術士会会員数を増加することで、発信力に優れた有能な技術士の人数も増えることになる。



(大学技術士会の活動とも関連したヒアリングからの重要な事項)

(2) 一次試験合格の学生が増えていくが、(大学、大学技術士会が関与できない) 二次試験の受験 (技術士資格) につながっていない。(→技術士が増える (技術士を増やす) → 有能な技術者が増える→技術立国に貢献のルートの構築)

日本技術士会への要望: 一次合格者を二次試験に繋げ、技術者資格を取得させていく仕掛け。

・技術士の活躍、資格の有用性や価値などの魅力の発信 (PR)

→ 技術士予備軍の学生への日本技術士会の入会奨励の支援 (← 日本技術士会の価値)

① 会費の低減 (現状では学生には高すぎる)

→ 学生向けに WEB 会員限定で安価に設定するのも方法か

② CPD の学生会員無料化

→ WEB での開催 (全国から視聴できるシステムに ⇔ 企業人でも同様)

(3) 技術士を評価する企業の存在感 (技術士の企業内活用の実績の紹介)

学生にとっては、1次試験合格が企業入社選抜の加点評価になれば、また企業内での技術士活用の実例が理解できていれば、受験のインセンティブとなる (⇔ 技術士資格の価値・評価にもつながり、技術士が増えることにもなる)。

以上